

平成 30 年 5 月 29 日

平成 30 度 第 1 回
学校関係者評価委員会／教育課程編成委員会 報告書

作成者(書記)：安田

日 時	平成 30 年 5 月 29 日(火) 13:00～17:00
場 所	札幌ベルエポック美容専門学校 401 教室
出席者	<委員 ※は教育課程編成委員も兼務> ※岩川 祥哉 業界代表 (札幌美容協働組合 副理事長) ※山崎 敬正 業界代表 (有限会社 GINGER) 西村 知子 地域代表 (東北第 2 町内会 会長、西村ビルオーナー) 鹿又 利賀子 保護者代表 (美容師科卒業生保護者) 佐藤 明彦 卒業生代表 (平成 15 年度本校卒業生 1 期生 株式会社 芭里絵アローズ ステラプレイス店店長) 鈴木 康弘 高等学校代表 北海道芸術高等学校 本部長 ※今回は卒業生である佐藤氏にも教育課程編成委員会に参加して頂きました。

<学校側参加者>

藤井 英嘉	札幌ベルエポック美容専門学校 学校長
下山 記弘	札幌ベルエポック美容専門学校 事務局長
藤本 佳奈	札幌ベルエポック美容専門学校 教務部長
大澤 慶太	札幌ベルエポック美容専門学校 美容師科学科長
加藤 幸樹	札幌ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター長
平賀 直子	札幌ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター

学校関係者評価委員会

- ・藤井学校長から挨拶→職業実践専門課程について説明。
- ・学校責任者(下山事務局長)から挨拶→職業実践専門課程の 3 つの柱について。
- ・委員のご紹介→お一人ずつ一言ごあいさつ。岩川様は所用のため途中から参加。

- ・平成 29 年度 自己点検・自己評価について

下山事務局長から提示資料を元に、本校の自己点検項目ごとに説明をさせていただいた。
学校コンセプトは「最新の美容・ファッションを札幌で学ぶ」

●教育成果について

退学・進級・美容師国家試験について藤本教務部長から→H30年度はより高い目標を目指す。
就職・離職率について下山（加藤）から→離職率対策については教育の成果が出てくるのが
これからであり、また美容業界からの離職率対策についてもご意見をいただきたい。

教育環境→校舎見学及び授業見学を実施した。

海外研修（1期生の佐藤さんの頃はほとんどの学生が参加していた）/東京研修について

・質疑応答

鹿又さん→他校は国家試験中心のカリキュラムだが、ベル美容はセットやオリジナルカットが学べて実技の先生が厳しくても国家試験に合格できれば、親としては問題ないと感じている。

西村さん→外部に出て何かを感じて戻ってくるシステムはいいと思う。去年、地域の小学生を連れてきて見学をさせてもらったが、とても子どもたちがとても喜んでいて良かった。地域の人たちが校舎を外から見ただけでは、美容学校って何をやっているんだろう？と思っ
ているので、気さくにこころよく受け入れてもらえたので、ぜひまた今年もお願いしたい。

鹿又さん、西村さん→口コミが重要なので、ぜひ自分たちが感じている部分を広めたいと思っている。

山崎さん→正直、今までベルか…（北海道美容さん、理美さんの次）という印象だったが、最近関わるようになってイメージが良くなった。多くの業界の人のイメージが払拭するためにどうするか。先生方の情熱がもっと学生に伝わることで学校への恩や情を感じてくれるのでは。また、学生の挨拶の質の底上げが必要。

佐藤さん→サロンワークが強み。楽しみながら授業するがベルらしさ。北海道美容、理美さんはエリートというイメージがあったが、ベルの強みを活かして行ってほしい。若いうちに海外研修に行く機会をあげられるのはいいことなので、数多くの学生に行ってもらいたい。

下山局長→業界を変えていくには卒業生の力がとても大きい。ベルはこれからは楽しみ。

西村さん→開業を目指せる美容師になってほしい。東北地区町内会には美容院が少ない地域なので、活性化できると良い。

教育課程編成委員会

藤本より平成 29 年度の教育数字の報告

① 容師国家試験結果報告

美容師科 95.3% HM科 91.7% どちらも筆記は 100%合格で実技で不合格者が出てしまった。

② 学者・転科者数報告

2年生の退学者を抑えるのが課題。2年生の退学は国家試験が中心になり、目的意識の喪失が退学につながると分析している。

③ 果分析

プラス→1年生の退学者が減少した。

マイナス→全体的な持久力の低下（登校習慣が高校時代から身につけていない）

学校としての教育テーマは「主体性と発信力」のある学生創りを行なっていく。

楽しく持久力を身につけ、現場実習のチャンスを多く経験し、人間教育を。

④ 学年歴の見直し→学びと楽しさのバランスの重視。2週間ごとに行事を組む。

近日中の予定では運動会。夏には「JOINT」というコンテストやヘアショーのイベントを計画中。

現時点での美容師科の取り組み	<p>大澤学科長より 1年生/コンテストの審査+フィードバックをもらうことでやりがいを感じてもらおう</p> <p>藤本教務部長→美容師って楽しいと感じてもらうためにはどうしたらいいか？</p> <p>佐藤さん→初めてお店でシャンプーしたときのお客様の声。ほめられたい願望はみんな持っている。 1年の最初は行きたくても起きられないことがあったが、担任の先生や友人の助けがあったから学校に行くことが出来た。</p> <p>2年生/加藤より、離職の理由がホームシックという例も多く、保護者を巻き込む工夫が必要。</p> <p>佐藤さん→先生に会いたくて学校に行っていた。</p>
質疑応答	<p>山崎さん→運動会に業界の方を呼び込むなど、業界の人と交流できる学校行事を企画してもいいのでは？</p> <p>藤本・大澤→学びの堅い行事に業界を呼ぶことが多いので、話しやすい雰囲気や業界を知れる行事を作るのは良い</p> <p>環境の作り方→藤本 学生に挨拶を根付かせるためにどうしたらいいのか？</p>

	<p>山崎さん→体育会系のノリも必要。 学生、職員、アシスタント、スタイリスト、店長、オーナーそれぞれ目線が違うので、いろいろな話を聞く場があると良い。 先生を知っているとその学校から学生を取りたくなる。 辞めるときに「ベルの子だから（自由、チャラチャラしている）」と学校のせいにする声を聞くので、その声を無くすためにも、業界に学校を見せる工夫が必要なのでは。</p>
<p>次回予定</p>	<p>学校関係者評価委員会 来年5月予定 教育課程編成委員会 11月14日（水）（予定）</p>